



# がんセンターたより

## 新年度のご挨拶



神奈川県立がんセンター総長

古瀬 純司

新しい年度が始まり、もう初夏の季節になりますが、私たちががんセンターも新たな気持ちで診療に臨んでいます。

新型コロナ肺炎が第5類に移行して1年とはいえ、まだまだ感染対策を行いながら、新しい時代に求められるがん医療に取り組んでいます。患者さんに負担の少ないがん医療の低侵襲化が進む中、私たちはロボット手術や重粒子線治療やIMRTなど高度の放射線治療の拡充、がんゲノム医療など、

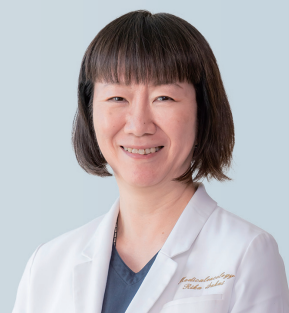
高度先進的がん医療の実践を推し進めています。

今、医療には患者さん一人一人の思いを大切にしたい診療が求められています。私たち職員は一丸となって患者さんが安心して治療を受けられる体制を整備し、より充実した医療安全の文化を浸透させていきたいと考えています。

がん医療は総合力です。多くの医療機関との緊密な連携が欠かせません。是非、今年度も引き続きみなさまのご協力とご理解をいただければ幸いです。

神奈川県立がんセンター病院長

酒井 リカ



病院長の酒井です。今回で第90回の発行となる「神奈川県立がんセンターたより」は、2001年5月に創刊されました。この23年間の歩みの中で、診療科・職種横断的なチームによる集学的がん医療を柱とし、県内医療機関の皆様と連携を図り、患者さん一人一人にとって最良となるがん医療の提供に努めてまいりました。今年度は、消化器内視鏡部門に新部長を迎え、また、7月には手術支援ロボットが2台となり、新たな医療体制で臨みます。

さらに重粒子線治療は、6月より早期肺癌、局所進行子宮頸部扁平上皮癌、婦人科領域悪性黒色腫に保険適用が拡大されます。近年、日進月歩で進化するがん診療を多様な背景の患者さんに着実に提供するにあたり、患者支援がますます重要になっています。当センターは今年度、患者支援部を組織改編し、様々なニーズに対応する体制を今まで以上に充実させました。今後とも、皆様方のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 消化器内科（内視鏡）開設とご挨拶

### ✓ 消化器内科（内視鏡）とは？

消化器内科（内視鏡）は2024年4月に新設されました。主に早期の消化管がん（食道・胃・十二指腸・大腸）に対するESDやEMRなどの内視鏡切除を中心に、内視鏡治療に特化した診療を行います。



### ／ 新部長としてのご挨拶・意気込み ／



消化器内科(内視鏡) 部長  
滝沢 耕平

はじめまして。4月1日付で消化器内科（内視鏡）部長に着任しました。これまで当センターでは消化器内科（消化管）において内視鏡治療から抗がん剤治療まで幅広く行っておりましたが、内視鏡部門が分離独立する形で消化器内科（内視鏡）が新設されました。地域のみなさまに信頼していただける消化器内科（内視鏡）を目指して、安全かつ最新の治療を提供できるよう努めて参ります。

#### 経歴

##### <学歴>

札幌医科大学医学部卒（1999年）  
慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了、学位取得

##### <主な職歴>

2003-2007年 国立がん研究センター中央病院 内視鏡部 レジデント  
2007-2021年 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 医長  
2021年- 北海道公立大学法人 札幌医科大学 客員教授（兼任）

## ✓ 地域連携について

早期の消化管がんなど、内視鏡治療の適応となりそうな患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当科までご紹介いただけますと幸いです。適応か迷う病変やなかなか診断のつかない病変などもぜひご紹介ください。

## ✓ 受診について

内視鏡の初診外来は、月曜（塩月医師）と木曜（滝沢医師）となります。もしどうしても都合のつかない場合は、いったん消化器内科（消化管）を受診していただいた後に、当科で検査や治療を行わせていただきます。

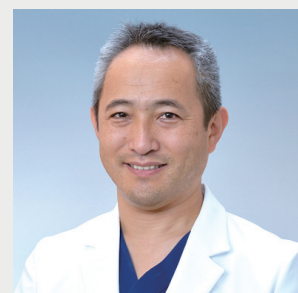
## ✓ 消化器内科（内視鏡）との今後の連携について

このたび消化器内科（消化管）より、消化器内科（内視鏡）が小規模人員ながら独立することができました。静岡がんセンターで豊富な経験を持つ2人のスタッフ、そして期待のレジデントの3名です。部長の滝沢はJCOG1009/1010試験のPIとして未分化型早期胃癌のESD適応を確立しガイドラインを書き換えなどの功績を残しております。当センターの内視鏡治療はこれから発展していきます。ESD適応新患受け入れも、当科も窓口となっております。



消化器内科(消化管) 部長  
町田 望

この度、当センターの消化器内科（内視鏡）に部長として滝沢が就任致しました。内視鏡治療のスペシャリストの赴任により、ESDをはじめとする内視鏡治療が更に発展するだけでなく、外科治療とのコラボレーションも更なる発展を期待できます。また近隣の先生方へのより迅速な治療の提供ができると考えております。神奈川県消化器癌治療の発展のために一緒に努力して参ります。



消化器外科(胃食道) 部長  
尾形 高士

## ✓ 今後の展望について

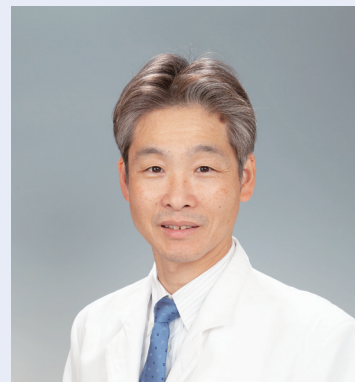
まずはしっかりと地域の医療機関及び住民の皆様信頼される消化器内科（内視鏡）を目指します。いずれは神奈川県内のみならず、県外や海外からの患者さんにも来ていただけるようにがんばります。

## 就任のご挨拶

副院長 兼 医療技術部長

伊藤 宏之

4月1日付で副院長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。当センターには1999年から3年間勤務ののち大学病院を経て、2005年より呼吸器外科医長、2013年より部長として勤務し、病院最古参のスタッフの一人です。感染対策、クリニカルパス、診療科データベース、手術室運営の責任者を経験した後、昨年度より医療技術部長を兼任しました。患者さんと医師・看護師を支える技師や薬剤師のサポートを行いつつ、医療機器や診療材料の維持・更新や選定も行うことで、より良い病院運営に助力しております。また今回、新たに医療の質管理部門の責任者も拝命いたしました。「より良い病院の質」を考え追いつめ続けることで、県民にはより上質な医療を提供し、病院スタッフにはより働き甲斐のある職場整備に邁進する所存です。兼務が多く大変ですが、期待に添うべく頑張りますので、皆様からのご助力もぜひお願いいたします。



副院長 兼 看護局長

砂田 麻奈美

4月1日付で副院長兼看護局長に就任いたしました。私は「成人病センター」から「がんセンター」に名称変更した年に採用され、その後、看護専門学校や行政や病院勤務を行き来し、今回5度目のがんセンターになります。入職当時は旧がんセンター「A棟」が新しくできたばかりだったことなどを思い出します。今の建物になるにあたり「青写真」を作成することにも関わらせていただいたことは、とても良い経験になっております。今回、このような立場で思い入れのある「がんセンター」に戻ることができ光栄に思っております。これまで様々に経験したことを現職の業務遂行に活かしていきたいと思っております。力不足な面も多々あると思いますが、皆様のお力を借りながら役割を果たせるよう職務遂行していきたいと思っております。



看護局 副看護局長

## 齊田 まち子

4月1日付で精神医療センターから、副看護局長として配属されました。神奈川県立病院育ちの私ですが、がんセンターには初めての配属となりました。大きな病院で最先端の医療に携わるものとして、身の引き締まる思いです。

環境の違いに戸惑うことはありますが、病院が変わり患者さんの持つ疾患が変わっても、看護師としてやるべきことは安全・安心な看護の提供と、患者さんに寄り添い、その人らしい生活を支援すること。看護の本質はどこにいても変わらないと感じています。

専門性の高い看護を求められるからこそ、教育担当の副看護局長として看護の基本に戻り、患者さんやご家族に対して誠実な看護ができる人材育成をしていきたいと思っています。そして、微力ではありますが、看護師が誇りとやりがいをもって、生き生きと働ける環境を整えられるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局 財務経営課長

## 柳谷 耕平

4月1日付で財務経営課長として着任しました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。私は神奈川県立病院機構設立初年度に入職し、当機構の勤務では3施設目となります。がんセンターの財務経営課長としては初めて県派遣職員ではないプロパー職員の課長です。

異動前は本部事務局財務部に在籍しており、主に当機構全体の決算や予算等の業務に携わっておりました。昨年度に新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、通常の医療へ移行しましたが、病院機構全体ではコロナ禍の影響が未だ残っており、経営が安定しない状況が続いています。今後も引き続き収支改善、経営改善が大きな課題となっている中、当機構の中核的病院であるがんセンターへ異動となり身の引き締まる思いであります。

また、患者さんに信頼され選ばれる医療機関であるために院内の環境整備等も進めていく必要があると思います。様々なことに対応できるよう、これから精一杯努力して参りますのでご指導のほどよろしくお願いいたします。



## 診療科部長 就任のご挨拶



血液・腫瘍内科（腫瘍）部長  
橋本 千寿子

4月1日付で血液・腫瘍内科（腫瘍）の部長として着任いたしました。腫瘍内科では、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などのリンパ球系腫瘍、原発不明がん、希少がんを対象に診療しています。この領域では、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など新しい治療薬が次々に導入されています。これらの新しい治療法を積極的に取り入れ、他の診療科や部門と連携したチーム医療を実践し、丁寧な診療に努め、患者さんに最良の医療を提供していくとともに、臨床試験や治験により、新しい治療法の開発に努めてまいります。当科のスタッフとともに、がん診療の向上に全力を尽くして参りますので、ご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

4月1日付で骨軟部腫瘍外科部長として赴任いたしました。当センターには修練医時代から3回目、5年ぶりの勤務となります。希少がんである肉腫は神奈川県下でも限られた施設でしか診療が行われておりません。当センターは昨年度よりサルコーマセンターを整備し、四肢体幹発生の症例以外にも後腹膜発生などより稀な病態にも対応できる体制を整えております。また同一施設内に重粒子線治療が整備されているのも大きな特徴です。肉腫診療における中心的な役割を果たして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



骨軟部腫瘍外科部長  
竹山 昌伸



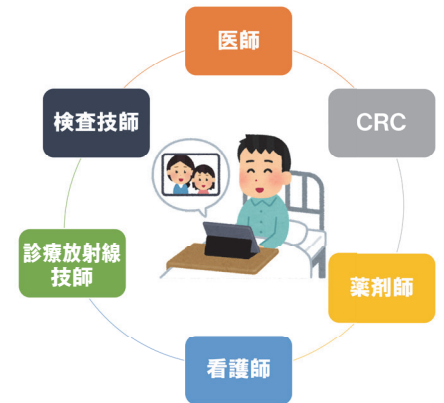
泌尿器科部長  
中井川 昇

4月1日付で泌尿器科部長および前立腺センターセンター長を拝命いたしました。通常の治療に加え、ロボット支援手術、重粒子線治療、体幹部定位照射、免疫複合療法といった多彩な治療ラインナップを揃えたがんゲノム医療拠点病院という当センターの特徴を最大限に活用し、患者さん一人一人が望む医療をゲノム診断に基づき提供できる診療体制を作っていきたいと思っています。治療成績の向上に伴い多くの施設や先生方との連携の重要性を今まで以上に感じています。引き続きご指導、ご協力の程をお願いいたします。

# 新規治療開発支援センターについて

## ▶ 新規治療開発支援センターとは？

新規治療開発支援センターは、主に企業や医師主導の治験・製造販売後臨床試験及び製造販売後調査において、受付・契約等の事務全般、治験依頼者との調整や被験者対応等の支援業務、治験審査委員会の運営管理等の業務を取り扱っています。合わせて、臨床研究における、研究申請の受付・契約、一部研究のデータ入力等支援業務、研究倫理審査委員会の運営も担っており、研究申請者への適切なサポートを行っております。



## センター長より

神奈川県立がんセンターは、複数の企業治験や多施設共同研究を受け入れ、積極的に新規治療の開発に取り組んでいます。新規治療開発支援センター（通称:HOPE）は、当院で行われている臨床試験の支援を行っている部署として、円滑に臨床試験が実施できるよう診療科の先生方と連携をしています。

また、臨床試験に参加していただいている患者さんが希望（HOPE）を持って、かつ安全に治療を受けてもらえるよう心掛けております。

### 村上 修司 Shuji Murakami

2002年 横浜市立大学医学部卒業、国立がんセンター中央病院医員、神奈川県立がんセンター呼吸器内科医長を経て 2022年4月より神奈川県立がんセンター新規治療開発支援センターセンター長に就任。

#### 【専門医 / 認定医】

- ・日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医 ・日本呼吸器学会 呼吸器専門医
- ・日本内科学会 認定内科医 ・日本癌治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本呼吸器学会 呼吸器指導医 ・日本感染症学会 ICD



呼吸器内科医長 兼  
新規治療開発支援センター  
センター長

村上 修司

## ▶ 今後の展望について



急速な発展を遂げているがんの分野に係る治験・臨床研究の状況に対応すべく、現在、センター長・副センター長のもと、一般事務2名、非常勤等事務13名、CRC（Clinical Research Coordinator）8名、DM（Data Manager）8名の計34名体制で運営しております。今後も、幅広いがん腫の治験を受け入れるのはもちろんのこと、スタッフの充実や、より効率的な業務を実施するために役立つシステムの導入など、運営の質を向上させる環境を整えて参ります。

## 治験 ニュース

2024年5月現在で、当院で扱っている治験は約230件、登録中の治験は63件となっております。

登録中の治験一覧は、診療科別に当院HPに掲載しておりますので、ご活用いただければ幸いです。

また、治験への参加のご相談につきましては、窓口の「がん相談支援センター」までお問い合わせください。

HPはこちらから



## 緩和ケア病棟の再開のお知らせ

緩和ケアセンター

4月より緩和ケア病棟としての運用を全面的に再開しました。悪性腫瘍の進行に伴う症状は多彩で、医療・ケアの対応は全人的で臨機応変のスキルを求められます。経験を豊富に有するスタッフが切れ目なく対処できるのが緩和ケア病棟の最大の強みです。当センターでの治療歴がない患者さんも利用が可能です。特に緩和ケア領域の専門医がいない病院や入院先の準備を希望する訪問診療の先生方からの申し込みを歓迎しております。また、抗がん治療中でも申し込みは可能ですのでlate phase regimenの時期に申し込みされることをお勧めしております。

### 緩和ケア病棟の申込方法とその後の流れ

- 必要書類と資料（HPを参照）を事前に郵送またはご持参ください。
  - 郵送先：「患者支援部 がん相談支援センター 初診受付」
  - 持参先：「がん相談支援センター⑦窓口」
- 後日、外来面談日を患者さんまたはご家族へお知らせいたします。面談は患者さんご本人の同席が望ましいですが、ご家族のみでも承ります。
- 外来で面談を行います。
- 入棟判定会議を行い、その結果を患者さんまたはご家族へ郵送いたします。（判定会議は概ね1週間以内に行います）

HPはこちらから



▲ HP 画面

### 地域連携室

## セミナー・勉強会等のお知らせ

### ▶ 第9回 先端医療セミナー ～婦人科がん～

**日時** 2024年8月20日（火）18:30～19:30

**形式** オンライン開催（ZOOM webinar）

●事前登録はこちら

右の2次元コードより、事前登録をお願い申し上げます。開催前日までに、ご登録頂いたメールアドレス宛にZOOM ID/PWをご送付致します。



### ▶ 第10回 先端医療セミナー ～肺がん～

**日時** 2024年10月9日（水）18:30～19:30

**形式** オンライン開催（ZOOM webinar）

●事前登録はこちら

右の2次元コードより、事前登録をお願い申し上げます。開催前日までに、ご登録頂いたメールアドレス宛にZOOM ID/PWをご送付致します。



### ▶ 2024年度（第17回） 神奈川県立がんセンター 緩和ケア研修会

**日時** 2024年11月16日（土）8:50～17:00

**場所** 神奈川県立がんセンター  
管理・研究棟5階 講堂

**対象者** がん診療に携わる医師・歯科医師、医療従事者

※申し込みについては近日、当センターHPにて掲載予定

## 編集後記

節目の90号「がんセンターたより」発行に当たり、読者の皆様がどのような情報を求めているか検討しました。それは我々に求められる使命とは何かを考えることでもありました。県内のがん患者さんがどこでも同じレベルのがん診療を享受できる体制を支援しつつ、当センターならではの稀少癌、難治癌に対する先進的な医療、重粒子、がんゲノム医療、基礎研究の臨床への橋渡し、などの情報発信が重要であると考えました。題字のリニューアルも検討しましたが、味のある従来の題字（初代編集委員長自筆）を踏襲することとしました。新たなチャレンジに取り組みつつ、がん患者さんに寄り添う精神は変わらない、そのような思いを感じ取っていただければ幸いです。

副院長 地域連携室長 岸田 健